

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	明確な療育方針と方法により、効果的な活動を実践している
	内容	施設開設当初から法人独自の療育プログラム「コロロメソッド」を実践している。自閉症の基本障害を「脳の器質に起因する言語認知障害である」と捉え、脳を活性化してその発達を促す適切な刺激を与えることを療育の基本方針としている。トレーニングプログラムとして、集団適応力と注視力・模倣力を培うダイナミック・リズム、自立歩行と持続力を獲得するための戸外歩行トレーニング、概念形成のための言語概念学習がある。一貫した明確な療育方針のため、利用者にも職員にもわかりやすく効果的な活動を実践することができる。
2	タイトル	時代の流れ、職員のニーズから研修の形を変えて、より参加しやすい研修を実施している
	内容	係長主任会議で職員等の意見を吸い上げ、研修研究課で検討して多角的な研修を実施できるよう取り組んでいる。支援力向上に繋げるOJT研修(サービス提供現場での現場研修)に力を注いでいる。時代の流れ、職員のニーズから研修の形を変えて、より参加しやすいように検討して改善に努めている。また、一年目職員に関してメンター制度を設けているとともに、成長プランシートを作成し目標が具体化され達成度合いを測りやすい仕組みを構築している。
3	タイトル	法人全体で意識を高めて、リスクマネジメントに取り組んでいる
	内容	今年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い専用の対策チームを組織した。法人全体で同レベルの感染予防対策と情報共有ができるように努めた。コロナウイルスに関わる情報を日々の引き継ぎや専用の情報ボードに掲示し、毎日の感染者数も掲示して全体の意識を高く保てるようにしている。具体的な対応方法や注意点などは研修という形を採り、予防対策に取り組んでいる。また、職員間の情報のやり取りを各個人でメールや無料通話アプリなどを使っていたが、セキュリティーレベルの高いツールに変え、ルールも明確にして情報流出防止策を強化している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者の高齢化と身体状況の変化に伴い、ケアや療育プログラムへのアプローチ方法を検討していく必要を感じている
	内容	利用者の高齢化とそれに伴う身体機能の低下、虚弱化がみられている。医療的ケアや生活動作の介助が必要な場面が年々増えてきている。職員は療育に加えて、健康管理、介護予防、身体介助の知識・技術が必要になっている。支援員が利用者の小さな変化に気づき、異常の早期発見、早期対応ができるよう観察・報告の徹底や、見極める力を養うことが必要と認識している。利用者の高齢化など身体状況の変化に伴うケアや療育プログラムの在り方を検討し、有効なアプローチを構築していきたいと考えている。
2	タイトル	利用者の行動特徴を把握し、支援する技術を高めることを課題としている
	内容	未然に事故や怪我を防ぐには利用者の行動特徴を把握し、支援する技術を高めることを課題としている。パニックや問題行動の対応をする際に技術が不足し感情的になってしまったり、それを回避するためにもそもそも問題行動の起こらない支援が不可欠であると考え職員の支援技術向上に積極的に取り組んでいる。
3	タイトル	新たなリーダー層の育成が喫緊の課題となっている
	内容	職員一人ひとりの支援スキルや適性に応じた指導の仕方について、役職者の育成スキルにばらつきがあると感じている。人員不足ではあるが、それ以上に高い技術力を持ったリーダー層の不足が深刻化しているため、現在の現場のリーダー層の身体的・精神的負担は増加していると認識している。新たなリーダー層の育成が喫緊の課題となっている。